

問1 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？

1. 大秦国 2. クシャーナ朝 3. ローマ帝国 4. パルティア

問2 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？

1. 漢鏡 2. 画文帯神獣鏡 3. 方格規矩鏡 4. 三角縁神獣鏡

問3 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？

1. 法典 2. 地理書 3. 随筆 4. 歴史書

問4 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？

1. 対馬 2. 志賀島 3. 種子島 4. 壱岐

問5 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？

1. 銅鏡 2. 銅鐸 3. 銅矛 4. 銅剣

問6 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？

1. 飛鳥 2. 弥生町 3. 向ヶ岡 4. 本郷

問7 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？

1. 隋 2. 魏 3. 前漢 4. 後漢

問8 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？

1. 金印 2. 銅鏡 3. 銅矛 4. 銅鐸

問9 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？

1. 木器 2. 石器 3. 金属器 4. 土器

問10 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？

1. 朝貢 2. 大化の改新 3. 冊封 4. 遣唐使

問11 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀 2. 古事記 3. 風土記 4. 魏志倭人伝

問12 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？

1. 狩り 2. 祭り 3. 戦い 4. 交易

問13 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？

1. 掘立柱 2. 茅葺き 3. ネズミ返し 4. 高床

問14 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？

1. 三内丸山遺跡 2. 吉野ヶ里遺跡 3. 登呂遺跡 4. 大森貝塚

問15 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？

1. 稲作 2. 採集 3. 漁労 4. 狩猟

答え合わせ・解説

問1	答え 3 ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問2	答え 1 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。
問3	答え 4 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問4	答え 2 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問5	答え 3 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問6	答え 2 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問7	答え 4 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。
問8	答え 1 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問9	答え 3 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問10	答え 1 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問11	答え 4 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問12	答え 2 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問13	答え 3 ネズミ返し	高床倉庫は、湿気やネズミの被害を防ぐために床を高くした建築物です。柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。
問14	答え 2 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問15	答え 1 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。